

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.11 (2013年5月号) ◆

GW も過ぎ風薫る候、みなさまにはご清栄のこととお慶び申し上げます。ニュースレター11号をお送りします。おかげさまで「Intelligence」13号が無事刊行されました。なお、購読を継続されている会員の中で9月からの新年度の会費を納入されていない方は、お早めにお納めいただきますようお願い申し上げます。また、次の14号の投稿原稿は、今年の9月末が締切です。皆様の優れた論文をお待ちしております。今後も「Intelligence」会員専用ウェブサイトとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

【第75回 20世紀メディア研究会】(4月30日午後2時半～5時半)

・前島志保(法政大学) 戦間期の婦人雑誌と出版の大衆化現象：『主婦之友』など戦間期の婦人雑誌が『キング』をしのぐ部数を誇りその読者層も男性読者にまで広がりを持ったこと、その影響力、メディア史における意味と位置づけ、歴史的な変遷などについて総合的に考察して下さった。

・小野耕世(国士舘大学) 「日曜報知」時代の小野佐世男：小野佐世男(1905-1954)の「日曜報知」(報知新聞社)発表作品(小野は1930-1937まで寄稿)を中心に、東京美術学校(現東京芸術大学)で西洋美術を学んだ小野の漫画家としての作風の確立と変容を解き明かした。あわせて「日曜報知」のメディアとしての性格及び小野が同時期に寄稿した「東京パック」(小野は1929-1941まで寄稿)など他のメディアとの比較分析を行って下さった。

・川崎賢子(日本映画大学) GHQ 占領政策と文楽——近代化と古典化をめぐって:GHQ 検閲、天覧上演、組合結成などの文楽における占領期のトピックとそれをめぐる言説を概観し、GHQ 資料に見る文楽の歴史的な分析や歌舞伎と文楽との検閲方針の相違、「郷土芸能」としての文楽が「古典芸能」「芸術」概念によって語り直される変容のプロセスなどを分析考察した。

【第76回 20世紀メディア研究会】(5月25日午後2時半～5時半)

・陳雅賽（早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程）「7・23 温州列車脱線事故におけるネット世論の形成——新浪ニュースサイト、新浪微博、天涯掲示板の分析を通じて」：ニュースサイト、掲示板、ツイッターという三種のネットメディアによる温州脱線事故に関するネット世論形成について、既存メディアへの依存度、公権力に対する批評性、情報伝達機能を軸に、分析していただいた。

・樋口喜昭（早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程）「初期のラジオ放送にみるローカルティ——日本放送協会の機関誌を手がかりに」：ローカル局の実態、放送内容の地域差とその変容を分析し、統制の進行と地域性の現れの変容を考察していただいた。

・土屋礼子（早稲田大学政治経済学術院）「占領期の大学生新聞」：プランゲ文庫資料、CIE資料などを用い、大学生新聞の起源と戦前戦中期、占領期・戦後の変容をめぐって、検閲及び占領政策、大学教育と大学生新聞との関係などについて考察していただいた。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされていません。<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html>

（閲覧は『Intelligence』の購読会員に限定されています。）

※次回研究会は6月29日(土)、7月は20日(土曜日)21日(日曜日)に検閲に関する国際シンポジウムを開催する予定です。8月9日はお休みをいただきます。夏休み明けは10月5日(土曜日)に研究会を開きます。10月以降ご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所 m20th@list.waseda.jp まで、メールにてご一報下さい。

※機関誌「Intelligence」14号の投稿締め切りは9月末日です。投稿を希望する方は上記事務局までご連絡ください。

【近著紹介】(敬称略)

有山輝雄『情報覇権と帝国日本 I 海底ケーブルと通信社の誕生』(吉川弘文館)、『山本美香最終講義 ザ・ミッション 戦場からの問い』(早稲田大学出版部)、谷口基『戦後変格派・山田風太郎：敗戦・科学・神・幽霊』(青弓社)。編集委員川崎賢子「検閲と性——坂口安吾と戦争」『映画芸術』(2013年5月増刊号「戦争と一人の女」公式プログラム)、「踊りは水木——久生十蘭のこと」『図書』2013年6月号。なお、編集委員でNPO法人インテリジェンス研究所理事長の山本武利がGHQ検閲に従事した日本人雇用者名簿を公開し情報提供を呼びかけています(2013年5月10日『毎日新聞』夕刊、http://www.npointelligence.com/CCD_JapaneseList.html)。

【今月のコラム】[敬称略]

いま気になっている演劇は、やなぎみわ演劇公演 2013「ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ」(神奈川公演 7月12日から15日 KAAT 神奈川芸術劇場、愛知公演 8月30日から9月1日愛知県芸術劇場)。東京ローズのラジオ番組「ゼロ・アワー」、戦時プロパガンダの史実とフィクションを交錯させテクノロジーと「声」(たち)をめぐる物語を展開することのこと。

[5月25日付文責：川崎賢子]